



西高に登る坂から見たカトリック元町教会

第186号 総会特集号



◇巻頭言◇

新しい歴史への一步を

会長 川島孝夫

(昭和31年卒)

平成十七年度総会が六月十八日、参加者各位のご協力で無事終了できました。引き続き行われた懇親会も例年同様、六百名を超す参加者が一堂に会し何時もながらの盛況の中で進められたことは誠に喜ばしいかぎりです。役員改選期でない今年度は通常業務の審議が中心となりましたが、母校がいよいよ明年四月から改組・再編による新たな出発を控えていると言うこともあり、母校の将来と同窓会の今後のあり方等を心配されながら参加された方も多かったと思います。

今朝(六月二十三日)、北海道新聞を開くと「教員志願者五二〇人減 前年度比二年連続 万人割れ 道教委発表」の見出しが目飛び込んできました。

過去の「デモ・シカ先生」と揶揄された時代が過ぎ、今日まで教員需要の減少に対処するため昭和六十三年度からは全国教育学区に新課程(ゼロ免)が設置されるなど、平成九年までに以前の二万人体制から一万五千人に削減されてきました。然し、教員需要の減少は止まらず、それに伴い平成十二年度までに教員養成課程が五千人体制から一万人体制となりましたが、ついに今では一万人を割るまでに削減され、教員養成系大学にとっては誠に厳しい冬の時代となりました。

この様な状況で、七百名の教員養成課程を抱える北海道教育大学も法人化され、将来五百名まで下がると思われる北海道教員需要の状況に対処する為、改組・再編の決断をせざるをえなかったものと思います。

我々同窓にとって教員養成課程が母校

から消えることは、父母を失うがごとき思いが致します。明治九年二月に「官立小学校教科伝習所」に源流を発し、大正三年に函館師範学校として創設され、二十世紀初頭から大正・昭和・平成の三代に亘り九十年の歴史を重ね、特に北海道教育界において数々の実績と功績を積み重ねてきた母校、その母校から「それ育英の大事業」の精神を教わり、それを心の拠りどころとして過ごしてきた我々には耐えられない思いがしてなりません。然し、辛いことは再編の流れの中で同窓の悲願であった教職免許の取得が、選択制ですが残され、九十年の夕陽の精神「土地墾闢・人民蕃殖」を受け継ぐ後継者をこれからも期待できることです。

新函館校は明年の入学生から、人間および地域の諸問題を教育研究する文理融合型の「人間地域科学課程」として生まれ変わり、五つの専攻コースで教育研究が行われます。それぞれの専攻コースで小学校・幼稚園・養護学校・中学校(国・社・数・理・英)、高校(国・地歴・公民・数・理・英)の教職免許資格の取得が可能とされています。また、従来どおり附属学校・別科・大学院の存続も約束されました。

長い議論を経て選択した新たな歴史を母校は今、歩み出そうとしています。「悲観論からは明るい未来は開かれない」と言われます。我が夕陽会も情熱と知恵を発揮し「創造し行動する夕陽会」として九十年の伝統を継承し、母校とともに新しい歴史への一步を踏み出そうではありませんか。

顧問・参与会

五月三十一日（火）五島軒駅前支店において、第六回役員会に引き続き、細川辰男顧問（昭和十一年卒）、大場光行参与（昭和十七年卒）等の参加を得て顧問・参与会が開催された。

就任二年目となる川島会長の挨拶で始まり、中瀬裕義副会長の議事進行で報告協議が行われた。総会議案審議では十七年度運営方針・推進事項の中の今後の夕陽会組織の強化や母校への支援について力点を置くこととなった。また、母校の状況について説明があり、パンフレット等の資料で来年四月にスタートする新生北海道教育大学函館校の概要について話された。最後に職能等にかかわる役員補充などについて協議し、この会を終えた。会終了後、川島会長より前安島会長へ十年間にわたる夕陽会へのご功績・ご尽力に対し感謝状が手渡され、出席者一同から心を込めた盛大な拍手が送られた。

全国支部長会議

夕陽会総会に先立って午後一時三十分より、全国支部長会議が二十六名の代表の参加を得て開催された。

尾島、中瀬両副会長の司会進行で議事が進められ、組織強化や財政事情等を含む総会議案等の審議、母校の現状報告、各支部の取り組みなどが話し合われた。総会議案審議では、教職外会員を含めた今後の組織の在り方の検討、会費納入会員の減少対策、母校の近況を会報で発信する等が話し合われた。

各支部の交流では、上川支部の石川支部長より「OBだより」の発刊やOB特別慶弔費の徴収に關しての報告があった。また、札幌支部の横山支部長より支部結成年次の特定に向けた調査を行い、数年後に支部結成八十周年事業を行う計画があるとの報告があった。

役員の補充、総会運営について拍手で承認され、この会を終えた。

総会・大懇親会

平成十七年度

夕陽会総会

六月十八日（土）午後四時より、平成十七年度「夕陽会」総会が函館国際ホテルにおいて盛大に開催された。

類家副幹事長の開会宣言の後、八十年を記念してつくられた「夕陽讃歌」を全員で大合唱した。

議事に先立ち挨拶に立った川島会長は「九十年続いてきた母校も明年四月から新しい一年を踏み出そうとしている。教員養成課程がなくなってしまうことには寂しさを感じるが、変化のないところに発展はない。夕陽会の新しい時代を創り出すために情熱と知恵をもって、先輩諸氏の精神を受け継ぎ、これからも行動し創造する夕陽会として母校への支援を続けていこうではないか。」と述べた。

挨拶をする川島会長



続いて、議長に石狩支部の時田支部長、帯広支部の森戸支部長、岩手支部の遠藤支部長代行を選出、三名の議長挨拶の後議事録署名人と役員選考委員、記録者を

夕陽会総会・大懇親会



総会の審議風景

選出して議事に入った。

報告事項では、須藤幹事長代行より会務報告、谷村財政部長より平成十六年度の会計報告、五百川会計監査より監査報告があり、全会一致で承認された。

次に川島会長より母校関係の話題として、明年四月からスタートする「人間地域科学課程」のシステムと教員希望者の教員免許取得の方法や他県の状況、今後の教員需給の見通し等について詳細な説明があった。

協議事項に入り、幹事長代行より平成十七年度方針並びに推進事項が、次いで財政部長より平成十七年度予算案がそれぞれ提案された。昨年度に引き続き、昭和二十四年卒で母校名誉教授の尾形猛氏より母校の教育研究にさらなる支援を要望する意見が出され、今後とも母校に対し人的、物的支援を続けていくことを確認して、議案は全会一致で承認された。

・大懇親会

於 函館国際ホテル



挨拶される安島前会長



全国支部長会議

平成17年度

夕陽会総会

平成17年6月18日

本年度は本部役員補充の年にあたり、副会長四名と幹事長および副幹事長が改選された。

平成十七年度の新たな本部役員は次のとおりである。

《夕陽会本部役員》（○は新役員）

会長 川島 孝夫（昭和31年卒）

副会長 塩崎 設男（昭和43年卒）

副会長 ○山本 俊秀（昭和43年卒）

副会長 ○土谷 雄一（昭和43年卒）

副会長 ○宮下 勤（昭和41年卒）

副会長 尾島 倭介（昭和34年卒）

副会長 ○中川眞一郎（昭和40年卒）

副会長 中瀬 裕義（昭和34年卒）

副会長 奥寺 恒夫（昭和17年卒）

副会長 中谷 匡利（昭和42年卒）

幹事長 ○須藤 由司（昭和52年卒）

副幹事長 類家 直人（昭和51年卒）

副幹事長 土谷 敬（昭和54年卒）

副幹事長 ○原子はるみ（昭和52年卒）

監査 今野 久男（昭和30年卒）

監査 松田 明雄（昭和30年卒）

監査 五百川 忠（昭和32年卒）

約一時間半におよぶ熱心な議論を経て夕陽会の平成十七年度の新しい方向と組織が決定した。最後に新しく役員になった方全員が起立し、活躍への期待を込めた熱い拍手で総会を閉じた。

（昭和56年卒 千代田小学校教頭 古川 邦彦記）

新たなスタートへ
心を一つにした
大懇親会

夕陽讃歌が心地よく流れる国際ホテル天平の間は、開会を待つ五十七卓・六百名を超える夕陽会員の大きな熱気に包まれていました。そして土谷雄一副会長の先導により来賓の方々が入場すると、会場は大きな拍手に包まれました。

司会を務める土谷敬副幹事長の進行のもと、塩崎設男副会長の開会の言葉により平成十七年度の夕陽会大懇親会が開幕しました。

菅野博先生（平成七年卒）の指揮によって、参加者全員の母校に対する思いを込めた「夕陽讃歌」が会場一杯に響き渡り、その余韻が残る中、挨拶に立たれた川島孝夫会長は、ご来賓を紹介したあと、本会が盛会裡に開催されたことに対しての感謝をされました。また、来年度四月から新たに生まれ変わる母校について触れ、「我々の育った教員養成課程がなくなるということはない寂しさを感じさせるが、発展のためには変革が必要である。これを機会に、新しい教育研究の理念を実現するために、新たにスタートする母校を力強く支援して参りたい。」と決意を述べました。

来賓の挨拶では、西尾正範函館市助役より「函館校とは、町づくりをおたがいに協力していく相互協力協定を結んでいる。町づくりの基盤は学校教育である。今後とも夕陽会の協力をお願いしたい。」との言葉がありました。

西村守北海道教育庁渡島教育局長から

は、北海道の教育振興の一翼を担ってきた夕陽会の功績に対して感謝の言葉が述べられ、「今後とも諸先輩から受け継がれた開学の精神をもとに愛情と信頼を基盤とし、調和と活力に満ちた学校づくりのためにご尽力いただきたい。」との期待の言葉をいただきました。

奥田亨教育大学副学長より「函館校創立時の不屈の精神と努力を大いに範として、函館の持つ歴史的な文化の風土を一層高め、地域の人々との絆を大切にすることから大学づくりを進めていきたい。いくつかの課題もあるが、夕陽会の皆様に一層のご支援とご協力をお願いしたい。」とのメッセージをいただき、夏井邦男附属図書館長が代読しました。

原子はるみ副幹事長の祝電・祝詞披露の後、恒例の音楽科卒業生八名の合唱団による校歌・学生歌が会場に響き渡り、雰囲気も一気に盛り上がりしました。

岩村吉男渡島教育委員会教育長会長のユーモア溢れるお話の後、「変革のときを迎えるわが母校を応援していこう。」とのご発声で祝宴が開始されました。

会場内は、若き日の記憶をよみがえらせ、旧交を温め合いながら、青春時代に戻ったように語り合う姿や、新たな出会いに胸弾ませながら、大いに親交を深める姿が見られ、夕陽会大懇親会ならではの熱気溢れる雰囲気になりました。その熱気に後押しされるように、フレッシュな新会員十二名が登壇し、それぞれが若者らしい元気なアピールを行いました。

さらには、小浅悌司木古内町教育長より新会員に対して「教師は授業が勝負。大いに研鑽を積んで頑張ってください。」との励ましの言葉が贈られ、新たな夕陽の同志となった十二名の胸にしっかりと

刻み込まれたものと思われます。

宴も佳境に入り、恒例のエールを山本公作先生（平成二年卒）の打ち鳴らす太鼓に合わせて、登壇した佐藤健先生（平成二年卒）がバンカラ調で檄を飛ばし、三三七拍子に合わせた

手拍子に、会場全体が大いに沸きかえりしました。時間も残り少なくなり、トリを飾る寮歌の合唱が始まりました。

諸先輩方が背に「夕陽」の揃いの法被姿で登壇、小林周二先生（昭和三十三年卒）の音頭で会場を揺らすような歌声が響き渡りました。

余韻が覚めないまま最後の乾杯に移り、金山正智函館市教育長の音頭によって、母校が新しいスタートを切る号砲として参会者の心を一つにした一本締めでお開きとなりました。

最後に山本俊秀副会長の閉会の言葉で

夕陽会大懇親会も盛会裡に終了しました。（昭和54年卒 上湯川小学校教頭 戸澤 和彦記）



金山正智教育長の乾杯の挨拶



寮歌の合唱

平成十七年度 夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

《推進事項》

- 1 組織強化と運営の効率化
会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と運営の効率化を図る。
- (1) 各界の会員動態の把握と広報活動の充実
- (2) 今後の組織の在り方の検討（新課程に対応した組織の在り方や市町村合併等による支部組織の再編等についてワーキンググループで検討）
- (3) 教職外会員及び高等学校支部、特

殊教育諸学校支部の強化

- (4) 女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画
- (5) 本部と各支部、各ブロックとの連携強化
- (6) 夕陽会報186、187、188号の発行
- (7) 母校、附属学校園及び函館に関する情報の積極的な提供
- (8) 夕陽会創立九十周年（平成二十年）記念事業の検討
- 2 人材の開発
人材の発掘と会員の地位の向上を図る。
- (1) 会員である道・市町村議会議員、首長等との連携
- (2) 関係機関・団体に所属する会員と

の連携

- 3 各支部研修活動の支援
財政の確立と業務の効率化
活発化する活動の維持・発展を図るため、財政の確立と財務の効率的な推進に努める。
- (1) 財政基盤の確立と諸会費納入の促進
- (2) 財政業務の効率的处理
- 4 研究の奨励と文化事業の推進
会員による個人及び共同の研究等を奨励し、特に若手会員の研究・研修意欲の高揚を図る。
- (1) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介
- (2) 会員による文化事業等の奨励（第八回夕陽美術展平成十八年度開催の準備）
- (3) 夕陽教育フォーラム、教育講演会等の開催

5 母校への支援

- 母校の発展を願い、当面する課題解決のための支援を行う。
- (1) 大学の中期目標・中期計画達成への支援（地域連携・社会貢献への協力・支援方策等についてワーキンググループで検討）
 - (2) 在学生（会員予定者）に対する同窓意識の啓発
 - (3) 就職対策関係事業への支援
 - (4) 学生のスポーツ・芸術活動への支援
 - 6 夕陽記念館（北方教育資料館）の整備・充実
各種記念資料等の収集と適切な保存、陳列の充実を図る。
 - (1) 記念資料等の収集
 - (2) 館内外の環境整備、陳列品の整備
 - (3) 会員の作品収集と目録補遺（夕陽会報）発行

会務報告



幹事長
須藤 由司
(昭和52年卒)

《一般会務》

- 3・15 夕陽会報第185号を発行する。
- 23 北海道教育大学函館校卒業式に川島会長が出席する。(函館)
- 23 函館校卒業生への入会手続きを本部事務局が行う。(函館)
- 4・6 北海道教育大学函館校入学式に川島会長が出席する。(函館)
- 7 北海道教育大学と函館市の相互協力協定書調印式に川島会長が出席する。(函館)
- 15 就職対策に関して信田・岩船相談員と川島会長・須藤副幹事長が意見交換する。(函館)

- 21 第四回本部役員会を開催する。(函館)
- 25 北海道教育大学有識者会議に川島会長が出席する。(函館)
- 28 本部総会・大懇親会について函館市支部と須藤幹事長代行が打合わせを行う。(函館)
- 29 春の叙勲（瑞宝・双光章）受賞者に祝意を表す。
- 5・11 事務局業務について須藤幹事長代行と副幹事長等が打合わせを行う。
- 12 大学改革に関して瀬川顧問と川島会長・須藤幹事長代行が懇談する。(函館)
- 25 第五回本部役員会を開催する。(函館)
- 28 平成16年度会計監査を行う。(函館)
- 31 顧問・参予会を開催する。(函館)
- 3・3 高等教育機関期成会に川島会長が出席する。(函館)
- 18 全国支部長会議を開催する。(函館)
- 18 平成17年度本部総会・懇親会を

開催する。

(函館)

《支部総会・祝賀会・個展等》

- 4・16 函館市支部総会に川島会長・須藤副幹事長が出席する。(函館)
- 21 札幌市支部総会に中瀬副会長が出席する。(札幌)
- 23 釧路支部総会に川島会長・須藤幹事長代行が出席する。(釧路)
- 23 上川支部総会に中瀬副会長が出席する。(旭川)
- 26 渡島支部八雲支会総会に川島会長が出席する。(八雲)
- 29 帯広市・十勝支部総会に川島会長が出席する。(帯広)
- 5・6 室蘭市支部総会に川島会長が出席する。(室蘭)
- 7 石狩支部総会に川島会長が出席する。(札幌)
- 7 空知連合支部総会に須藤幹事長代行が出席する。(札幌)
- 14 渡島支部総会に川島会長・須藤幹事長代行が出席する。(函館)
- 14 小樽市支部総会に須藤副幹事長が出席する。(小樽)

苫小牧市支部総会に須藤幹事長代行が出席する。(苫小牧)

後志支部総会に川島会長が出席する。(倶知安)

檜山支部総会に信田総務が出席する。(江差)

函館市支部幹事会及び新会員・幹事歓迎会に川島会長・須藤幹事長代行が出席する。(函館)

渡島支部上磯支会総会に須藤幹事長代行が出席する。(上磯)

渡島支部七飯支会総会に川島会長が出席する。(七飯)

渡島支部大野支会総会に祝意を表す。(大野)

渡島支部長万部支会総会に川島会長が出席する。(長万部)

渡島支部知内支会総会に須藤幹事長代行が出席する。(知内)

楽友会昭和31年卒同期会に祝意を表す。(函館)

渡島支部森支会総会に川島会長が出席する。(森)

平成18年度

本部総会・懇親会

- 日 時 平成18年6月17日(土)
 開催地 函館国際ホテル
 (函館市大手町16-9 ☎0138-23-6161)
 ・支部長会議 午後1時30分～
 ・総会 午後4時～
 ・懇親会 午後5時30分～

受賞(章)おめでとうございます

ごさいます

※春の叙勲

瑞宝双光章

山尾 正氏 昭和二十三年卒

函館市深堀町四〇の一

福島 俊也氏 昭和二十八年卒

札幌市中央区北三西二の二の二七の八〇三

長谷川政吉氏 昭和二十八年卒

登別市登別本町一の一の八の一

高齡者叙勲

木村 良氏 昭和十二年卒

函館市松川町四一の一八

夕陽会本部事務局業務分担

庶務部

類家 直人(附属小副校長)

- 1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録
- 2 文書の收受、発送及び保管
- 3 会員の慶弔事務
- 4 その他、庶務に関する事

財政部

谷村 誠(柏野小長)

- 1 通常会費の徴収、支出事務
- 2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務
- 3 予算書、決算書の作成
- 4 その他、財政に関する事

組織部

土谷 敬(附属中副校長)

- 1 支部組織の編成と組織強化対策
- 2 会員の動態調査(支部別、校種別会員名簿)
- 3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集
- 4 Web委員会による夕陽会ホームページの作成とその管理
- 5 その他、組織全般に関する事

情宣部

秋元 順一(北昭和小長)

- 1 「夕陽会報」の発行
- 2 事務局報の発行
- 3 その他、情宣に関する事

文化部

大川富美男(桐花中長)

- 1 会員の文化活動に対する支援
- 2 文化事業(音楽会・美術展・書道展等)の企画、実施
- 3 その他、文化に関する事

研修部

道幸 拓志(久根別小長)

- 1 会員の地位向上対策
- 2 会員の個人及び共同研究への助成
- 3 支部ブロックにおける研修活動に対する支援
- 4 その他、研修に関する事

厚生部

安保 勝順(中央小長)

- 1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施
- 2 記念資料及び会員の作品収集
- 3 夕陽記念館の整備、充実
- 4 その他、厚生に関する事

同期会・研究室の集い等告知コーナー

平成十七年度 体育研究室同窓の会総会・懇親会

とき/平成十七年十一月十九日(土)
ところ/法華クラブ函館

※会員の皆さんはぜひ参加を！ 後日、ご案内します。

夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページもウェブ委員会の皆様のご尽力により、刷新されてから1年が経過しました。現在まで、約16,000人の方からのアクセスがありました。夕陽会員の皆様に母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を提供すべく、日々更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページ
の主な情報

会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み
 会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過
 母校90周年記念式典、支部・本部掲示板
 本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報
 渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」
 母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。また、本年4月の個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つため、過去に掲載した情報の見直しを図り、不適切なものは削除するとともに、ガイドラインの策定に取り組まかっているところです。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<http://www.sekiyou.org/>

組織部長 土谷 敬 (昭和54年卒)

平成十七年度
夕陽會本部役員名簿

監 査	函館市深堀町 35 ― 24		川島 孝夫		森町字 森川町 303 ― 61		松田 明雄		函館市深堀町 40 ― 11		函館市深堀町 2 ― 8	
	函館市立八幡小学校長		塩崎 設男		函館市花園町 5 ― 10		五百川 忠雄		函館市西区発寒 7 ― 5		札幌市厚別区大谷地東 5 ― 15	
代表 支部長	函館市立潮見中学校長		山本 俊秀		北海道教育大学副学長(函館校担当)		函館市立立峰小学校長		函館市戸倉町 19 ― 12		函館市教育委員会教育長	
	上磯町立浜分小学校長		土谷 雄一		函館市花園町 40 ― 13		函館市立あさひ小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市美原 2 ― 26	
代表 支部長	函館市湯川町 2 ― 43		尾畠 梯介		上磯町常盤 1 ― 13		七飯町立峠下小学校長		函館市湯川町 2 ― 35		函館市山の手 1 ― 27	
	札幌市西区福井 2 ― 3		中瀬 裕義		東京都東久留米市学園 1 ― 13		函館市立あさひ小学校長		函館市西旭岡町 2 ― 23		函館市山の手 1 ― 27	
幹 事長	乙部町字 柴浜 48		中川 眞一郎		札幌市南区真駒内緑町 3 ― 5		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
	函館大学付属柏校高等学校長		宮下 勤		函館市五稜郭町 41 ― 9		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
副幹 事長	三沢市中央町 3 ― 10		奥寺 恒夫		函館市杉並町 23 ― 7		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
	青森市道道 1 ― 9		中谷 匡利		函館市柏木町 4 ― 20		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
副幹 事長	北海道教育大学附属養護学校副校長		須藤 由司		函館市杉並町 41 ― 9		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
	北海道教育大学附属函館中学校副校長		土谷 敬		函館市千歳町 27 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
総 務	北海道教育大学附属函館幼稚園副園長		北原 直人		函館市本町 22 ― 23		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
	函館市の場町 25 ― 13		高橋 正雄		函館市船見町 2 ― 18		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
幹 事長	上磯町字 押上 2 ― 3		山本 三夫		函館市東山 2 ― 17		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
	函館市榎本町 4 ― 5		高井 信行		札幌市豊平区西岡 4 ― 5		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
副幹 事長	函館市柏木町 2 ― 17		田中 久		札幌市南区川沿 1 条 4 丁目 9 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
	函館市北美原 2 ― 13		信田 利之		函館市市本多 2 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
代表 支部長	函館市住吉町 17 ― 18		池上 信廣		函館市市本多 2 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
	函館市榎本町 6 ― 20		繪面 和子		函館市市本多 2 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
代表 支部長	函館市桔梗町 4 ― 5		網野 重治		函館市市本多 2 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
	函館市立あさひ小学校長		伊藤 皓嗣		函館市市本多 2 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
代表 支部長	函館市立あさひ小学校長		川合 正芳		函館市市本多 2 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
	函館市立あさひ小学校長		津田 英昭		函館市市本多 2 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
監 査	八雲町立大関小学校長		竹内 良容		函館市市本多 2 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	
	函館市中道 1 ― 28		今野 久男		函館市市本多 2 ― 3		函館市立立峰小学校長		函館市松陰町 25 ― 36		函館市山の手 1 ― 27	

平成十七年度 支部役員名簿

[illegible]



就任

挨拶



就任にあたって

副会長 中川 眞一郎
(昭和40年卒)

この度、副会長の大任を若輩ながら仰せつかり、戸惑いとその重責に身の引き締まる思いをいたしております。

私どもの入学した母校は北海道芸大函館分校で、当時はまだ学園紛争で揺れた後遺症があり、廊下にはアジビラが飛び交い、学生集会ではヤジと怒りの埒がわからなかつた。一方、自由な雰囲気は保障されていた研究室では教授の温かな指導と同期や後輩との家族のような触れ合い。田舎者の私は母校で豊かに醸成させていただきました。

同窓の意識や絆は、在学中は勿論ですが、むしろ卒業してからの職場での先輩のなかで培われ、育てあげられるものだと感じております。私は昭和四十年四月、檜山の乙部小学校に赴任させていただきました。学年主任が函館師範学校の卒業で、最初は「お前は俺の後輩だ」と一言もおっしゃりませんでした。新卒



就任にあたって

副会長 土谷 雄一
(昭和43年卒 上磯町立浜分小学校長)

この度、渡島小中学校長会長に選任され、いわゆる「充て職」ではありますが、副会長を仰せ付けられました。短期間では

ありますが、夕陽会のお手伝いをさせていただく事になります。微力ではありますが、ようやく会に対し「恩返し」が出



就任にあたって

副会長 宮下 勤
(昭和41年卒 函館大学付属柏稜高等学校長)

このたび、総会におきまして副会長に選任されました。微力ではありますが、先輩諸氏のご指導を受けながら、夕陽会の発展のために努めたいと存じます。よろしくお願いいたします。

母校を卒業し、空知、渡島、石狩、上川、釧路と北海道の多くの町の高校で勤務しました。最後に故郷であります函館中部高校で退職、そして、現在、函館大学付属柏稜高等学校に在職しております。子供の頃は、煙がたなびく駒ヶ岳を遠くに見ながら、夕陽の光が海面に反射するのを見て、汐の匂いがなければ息がつかない、そう思いながら、各地で勤務しておりました。

これまで公立高校、私立高校とそれぞれの立場で、この渡島管内の教育を考え、北海道教育大学函館校の動向を見て参りましたが、私たち夕陽会の果たすべき役割は、これからますます重要になってい



副会長就任にあたって

副会長 山本 俊秀
(昭和43年卒 函館市立潮見中学校長)

このたび、副会長の大任を仰せつかり身の引き締まる思いであります。微力ではありますが、川島会長様はじめ、本部

役員の皆様方のお力をいただきながら夕陽会の発展に尽くしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

来そうだとということで、喜んでおります。自分が曲がりなりにも今日を築き上げてこれたのは、これまでの教員生活の中で様々な面からご援助・ご指導をいただいた夕陽の先輩や同期の皆さんのおかげです。昭和四十三年四月、新採用として八雲小学校から教員生活が出発しました。記憶に定かではありませんが、新会員の歓迎会を兼ねた支会総会の懇親会の席で、生意気で横着な態度で先輩諸氏の懇話を買ったのが、私の夕陽会員としての出発だったように思います。その後、木古内上磯とお誘いがあれば総会や送別会等に参加する中で同窓の絆の強さやよさを自分なりに見出す事が出来たように思います。特に三十歳代半ばで「将来は一国一



スクラムを組んで一歩前へ

幹事長 須藤 由司

(昭和52年卒 附属養護学校副校長)

夕陽讃歌、大好きです。感動します。四月、藤川隆前幹事長の異動により、二か月程、幹事長代行として、本部の仕事させていたいただきました。不慣れな中、支部総会や本部役員会等では、皆様に大変お世話になり、感謝しております。

六月十八日、全国支部長会議、総会を迎え、無事終えることができ、安堵する間もなく、幹事長に選任されました。その責任の重大さに痛切に感じました。そして、大懇親会の盛り上がり大きな感動を覚えた会員の一人でありました。

私は、函館 渡島での勤務がほとんどでしたが、二年間、この地を離れました。赴任後、職場や地域で多くの夕陽の仲間に応援していただきました。室蘭・苫小牧・胆振連合支部の皆さんの温かい歓迎と励ましをいただき、大変心強く、そして、うれしく思いました。函館を離れて始めて、夕陽の絆の強さを感じました。

城の主として学校を動かしてみたい」などという大それたことを考えるようになったのも、考えてみれば今は亡き大先輩のたいなる感化があつての事と感謝の念に絶えません。平成四年に教頭に昇任し、管理職としての第一歩を踏み出した後も、様々な場面で叱咤激励をいただきました。今日に至っております。

今、青年時代を過ごした我が学び舎は時代の改変の大波に洗われ昔日の面影は薄れてきています。が、母校で過ごした幾多の思い出多き生活の場面はそれぞれの会員の心にその時々時代の背景と共に強く刻み込まれています。その営み・思いの中で、夕陽の精神がこしえに語り継がれていくことを期待します。

さて、今、母校函館校が来年度より大きく変わります。このことから、我同窓会も、今日までの歴史と実績の上に新たな歩みをしなければならぬと考えます。新生函館校、学生への支援、そして、夕陽会の活動の一層の充実を図っていくことが最大の課題であり、幹事長の仕事であると考えています。

川島会長を先頭に、本部役員、事務局と支部・支会・同期会等を通して会員が一体となつて、アイディアを出し合い、スクラムを組んで一歩一歩前進しようではありませんか。教員、公務員、企業に勤務の皆さん、退職会員が一致団結して同窓会をより元気にしていきましょう。新米幹事長ですが、やる気と行動力は人一倍のつもりです。会員の皆様の応援を背にして、一歩前へ進む決意ですので、ご協力をよろしく願います。夕陽とこしえに夕陽とこしえに“

早いもので母校を卒業して三十八年目を迎えますが、新米教師として赴任したのは、釧路管内弟子屈町でした。夏冬の寒暖差が六十度と聞きましたが、冬の釧路川から立ち上る湯気を温泉と勘違いしたり、生徒のきまりに冬はズボンの下にもしきを、そして、耳かけ手袋を必ず身に付けて登校するところには驚きました。教員住宅と校舎の距離はわずか百メートルくらいでしたが、手袋を履かない手の指先はかじかみ校舎に入っても指が曲がらないのです。また、冬場スケートリンク作りに夜の九時過ぎからよくかき出されました。早く函館に戻りたいと思つたのですが、結局九年も勤務する地になるとは考えてもいませんでした。



えんじ色の会旗のもとで

副幹事長 原子 はるみ

(昭和52年卒 附属函館幼稚園副園長)

このたび、須藤幹事長の後を受けまして副幹事長の任に就くことになりました。附属養護学校時代より今まで財務部員として仕事をさせていただきましたが、今度は幹事長を補佐する立場になり、その職責を感じております。

また、夕陽会本部の仕事させていただくことに對しての、重大さと責務に戸惑い、緊張しております。

夕陽会とは・私の新任の頃は「夕陽会」の名こそ聞け、何の会？校長先生や先輩諸氏の難しい会であり、ずっと無縁のものと思つていたのが事実です。

ところがその後、何気なく届いた夕陽会の分厚い名簿をパラパラと眺めているうちに、偶然、祖父（昭和十二年没）の名を見つけました。会ったこともない祖父ですが、何か嬉しく思つたことを覚えております。さらに、夕陽大懇親会に出席した折り、ご指導いただいたり、お世話

でも、現職研修が盛んで、教師としての姿勢、また授業に必要な基本を身に付けることができましたし、子ども達と放課後、土曜・日曜と遊びました。しかし、心の底にいつもあるのはあの懐かしい「函館」という言葉の響きでしたし、離れてこそ分かる「故郷のよさ」なのです。あれから三十年、今も思い出すのはあの釧路の地で、「函館」の地を語り合った同僚達との姿です。それは、どこに赴任しても同窓会への思い、夕陽への変わることはない心です。

これからも、母校への思い、夕陽会との絆を大切に、副会長として役割を努めて参ります。皆様のご指導とご支援をお願い致します。

決定的なかわりは、附属養護学校勤務の時でした。毎年行われる資料館の掃除で写真を始め、見たことのない、たくさん資料に触れ夕陽会の伝統の重さを知ることになりました。

そして、財政部員としてお手伝いさせていただき、函館はもとより、道内外の大先輩や後輩と言葉を交わし、知り合うことができました。

これから夕陽会本部の仕事させていただくこととなりますが、二人の副幹事長と共に協力し、各支部と連携を図りながら創造し、行動する夕陽会に貢献する所存でございます。母校と夕陽会の発展のために、今後とも会員皆様のご協力とご支援をよろしくお願い致します。

退任ご挨拶



理屈のいらない楽しさの共有

藤川 隆
(昭和48年卒)

平成十五年六月に、幹事長を仰せつかって、約二年間という短い期間でしたが、その仕事をさせていただきました。

この間、職責を十分に果たすことができず、多くの方々にご心配とご迷惑をおかけいたしましたことを、申し訳なく思っております。

しかし、私にとりましては、様々な方々との出会いがあり、その中で、人と人のかかわりの大切さや、夕陽会の大きさと深さを学ばせていただきました。

とりわけ、道内はもちろんのこと、本州の各支部からお招きをいただき、総会・懇親会に出席する機会を得て、年代を超えて様々な立場の会員の皆様と出会うことが出来たことは、貴重な財産となっております。

また、各支部の懇親会の次第や内容等にも、それぞれ伝統や工夫があり、その支部なりの雰囲気が出され、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。細かなご配慮を賜りました各支部長様はじめ、役員の皆様に重ねてお礼を申し上げます。

さて、ある支部の懇親会の席で、先輩の方が、「夕陽会に、難しい理屈はいらないよ。時期は違っても、青春時代の数年間を同じ大学で学んだこと、それだけで懐かしい話を楽しんでくれるんだよ。単純なことさ」と話されていたこと

が、強く印象に残っております。

確かに、たとえ初対面の方であっても、「私は、桐花寮に入っていました。」と語るだけで、全寮制時代のことから、朝は麦飯で夜は白米という寮の食事の話、そして、風呂の清掃当番の思い出まで、次々と懐かしい話が展開されていきます。

さらに、この話をそばで聞いていた若い会員が、「へえ、桐花寮は二段ベッドで、四人部屋だったのですか。」と驚き、寮の話は平成の卒業生まで巻き込んで、一層広がっていくのです。

そこには、大先輩が語ってくださった「理屈のいらない楽しさ」の共有があり、このことが夕陽会の原点だと思っております。今、母校は人間地域科学課程として、大きく生まれ変わろうとしています。青春の数年間を函館の同じ大学で学んだ人間同士のつながりは、これからますますと変わることはありません。

全国各地で、夕陽会の名の下に、多くの会員が集い、年代や職種、立場を超えて、理屈のいらない楽しさを共有してほしいと願っております。

終わりにになりましたが、川島会長様、安島前会長様はじめ、本部役員の方々や会員の皆様には、常に温かなご指導とご支援を賜りましたことに、心から感謝を申し上げます。退任の挨拶といたします。



新生函館校「人間地域科学課程」構想について

北海道教育大学副学長(函館校担当)

奥田 亨

昨年の夕陽会報にて、函館校が平成十八年四月から新しく生まれ変わる構想にあることをお知らせしました。それからほぼ一年を経過した今、この構想の教育課程の骨格、カリキュラムの内容、スタッフの構成などの中身づくりまで進めることが出来、今なおその準備に向けて努力しているところです。新しい教育課程は、「人間地域科学課程」という名称となり、文科省、関係審議機関においてほぼ承認されることになりました。函館校の人間地域科学課程は、人間科学と地域科学の二つの複合的学問領域を基礎として、文系・理系の両側面から学際的専門教育・研究を進め、二十一世紀の地域・自治体・企業において求められる人材育成をめざそうとするものです。「人間発達専攻」、「国際文化・協力専攻」、「情報科学専攻」、「地域創生専攻」、「環境科学専攻」などの五つ専攻から構成されます。今年の五月、及び七月に作成しましたパンフレット、冊子には、課程の特徴、教育プログラムの特色、それぞれの専攻やそのなかの分野について詳しく書かせていただいていますので、ぜひ参考にしていただければと思います。

教員養成課程とはひと味違った個性ある特色をもった教員の養成をこの中で進めていきたいと考えています。私達は、これはある意味において、北海道学芸大学と呼ばれた時代との共通点を持つ大学づくりとの考え方も持っています。

私達はこの人間地域科学課程の今後の発展に向けて新たな夢と期待を持っています。今回の北海道教育大学をめぐる再編は、今までの改組とは質的に異なるものであり、とりわけ、函館校にとっては、歴史的な大きな転換をめざすこととなります。函館校創立時の精神と努力を大いに範とし、函館のもつ歴史的な文化の風土をいっそう高め、地域の人々との絆を大切にすることからの大学づくりを進めたいと考えています。私達はこの「人間地域科学課程」を、遠くない将来、さらに「人間地域科学部」へと発展させていく将来構想も考えています。

しかしいくつかの当面する課題も持っています。学生数は今までよりも増えるものの、函館キャンパスの建物は他キャンパスに比べて古く、抜本的な改修や増築が必要となっています。これは国への概算要求などを通して早くに実現しなければなりません。また新たに入学してくる学生に対して、今まで以上の就職対策企業への就職開拓をしなければなりません。そのためには私たちの努力はもちろんのこと、多くの方々の協力を得ていくことが必要となっています。そのようなことから、この場をお借りして夕陽会の皆様方には今後のご協力とご支援とご協力をお願いする次第です。

母校は今①

この人間地域科学課程では、従来のような教員養成課程は持たないこととなります。しかし決して教員養成の機能を果たさないわけではありません。小学校・幼稚園・養護学校の教員免許、国語・英語・社会・数学・理科の中学・高校教員免許などはそれぞれに対応した専攻の中で取得が可能となっております。他キャンパスの



和と心をはぐくむ夕陽会に

札幌支部長 横山 眞 昭

(昭和44年卒 札幌市立山鼻中学校長)

札幌支部は、OB会員四七五名、現職会員四四七名、合計九二二名の会員で組織されています。少子化に伴う学級数の減少のため、新採用教員・管外転入教員の激減が続く、現職会員数は大幅に減少しています。さらに、これまで支部の活性化を目指してリードして下さった先輩(特に管理職)の皆さまが、一気に退職される時期が始まっています。

大学改変等での、今後の会員数減少も大きな課題ですが、活動を支えるリーダーがいなくなることは、支部として大変深刻な問題として受け止めなければなりません。

また、解決しなければならぬ課題も山積しています。「現職会員はもちろん退職された先輩会員の夕陽会への所属意識を、どう高めていくか」「これからの支部活動を担う若手会員を、活動にどう取り込んでいくか」そして、「現職会員の資質向上のための研修のあり方」「財政基盤を確立させるための会費納入のあり方」等々、いずれの課題も会員の理解と協力がなければ解決できないことばかりです。

ところで札幌支部では、支部結成時期を特定することが、多年の懸案事項でありました。そのため、平成十五年に「夕陽会札幌支部史を採る委員会」(野田孝夫委員長)を立ち上げ、情報収集に努め

てきました。本部夕陽会記念館に向うしでの調査、歴代支部長からの聞き取り等を試みて、今年度の総会で最終答申が出されました。それによると、第二回生高松時雄氏を中心となつて、昭和三年に定山溪で会員二十名による初の会合を開いたことから、この年を支部創立とすることが相応しいと報告されました。

また、平成二十年に支部創立八十周年記念式典・祝賀会の開催が提案され、承認されました。札幌在住の同窓が一堂に会し、建学の精神と先輩の足跡を辿ることのできるまたとない機会であり、札幌市の教育実践に情熱をかけた素晴らしい遺志を受け継ぎ、夕陽会札幌支部の更なる飛躍を誓い合う大切な場にしたものと思います。

「キラリ光る夕陽会」「群れ集う夕陽会」は、前青柳史匡支部長から受け継いだ私たちの大切な活動のモットーです。歴史と夜景、そしてロマンのある街・函館で学生時代を過ごした私たちは、その限られた出会いの機会を大切に、今このように札幌で集っております。

「組織は人なり 人は和なり 和は心なり」の言葉のごとく、組織として人を大切に、和と心をはぐくんで、これからの活動をさらに充実発展させたいものと思っております。



日高支部便り

日高支部長 佐藤 光 雄

(昭和43年卒 静内町立高静小学校長)

「日高山脈のふところの村」ということで名付けられました日高町から「エンルム」が転訛しましたえりも町までの九町・九支会で構成されています夕陽会日高支部の活動をお知らせします。

管理職・OB中心の活動から、若手会員を取り込んだ活動へと、重点化を図って活動を進めることにしています。

会員意識の高揚には、OB会員の存在が欠かせません。OB会員を交えての交流等のために、各支会に支部から補助金を出し、全支会で懇親会等を開催するように働きかけをしています。

今年度は、八名の新採用者を迎え、支部歓迎会を開催しました。しかし、新採用者がその後の活動に加わるかと言うとその場限りに終わりがちです。歓迎を機に、会員意識の高揚を図るために、二十代から三十代の若い会員の交流会を開催することにしています。

人材の育成が大きな課題となつています。夕陽会をはじめ、他の管内からのご支援をいただきながら確保に努めている現状を鑑み、各支会役員を中心に発掘を急いでおります。

昨年度、苫小牧支部さんが、活動PRパンフを作成したとの報告を聞き、今年度は、日高支部でも発行することにした。支部間の活動交流の大切さを感じ

ております。

支部便りを年間三号発行しておりますが、OB会員から、OBの活躍を交流するために、近況報告を載せてもらいたいとの要望を受け、昨年度から、掲載しております。

「八十才を区切りに自治会役員を後進にバトンタッチ。OB仲間との定期的な軽スポーツを楽しみ、情報交換。趣味の大正琴の文化サークルで、昔の娘さんから何らかのエネルギーをもらい発表会や施設慰問にと動き回っています。寮歌の中に出てくる十一州は何を意味しているのかという質問がありました。今回の『夕陽だより』でお答えしますので、お楽しみに」などの、元気に活躍しておられますOB会員の近況報告が、紙面を活気づけております。

会費の早期納入・納入率アップを目指し、早期のお知らせ・会費徴収の工夫とともに、中間での納入状況を集約・還流することになっています。

夕陽会日高支部は、若手役員を中心に知恵を出し合い、会員の知恵を集め、夕陽会旗の揮毫に込められました「きらめき」の如く、一人一人のきらめきが、大きなきらめきとなることを願って、活動を進めているところです。

支部だより

前納会費納入会員名簿追加分

大橋 瑞恵 昭39
冬野 越史 昭42
齋藤 良子 昭33
小西 三郎 昭32
上田 和子 昭41
市根井 孝悦 函館 昭38
(平成十七年二月二十八日現在)

青柳 史匡 昭42
藤原 祐助 昭42
熊谷 靖子 昭42
中山 晃一 昭43
木村 正裕 昭42
藤原 正幸 函館 昭29
船矢 美幸 函館 昭42

唐澤 龜三 昭42
菅 忠良 昭43
西村 昌三 昭43
熊木 重昭 昭42
川島 敏義 函館 昭42
中谷 匡利 青森津軽 昭42
(平成十七年七月一日現在)

夕陽会員計報

吉田 初實氏 昭17	17・2・28	山岸 秀一氏 昭44	17・4・27
七飯町大中山2の2の33	敦男氏	函館市東山3の20の8	通子氏
小澤 梯二氏 昭20	17・3・7	小原 一雄氏 昭19	17・4・26
札幌市北区琴似4条8の4の2	悦子氏	砂山市西4条北4の1の22	サタ子氏
萩村 恒氏 昭20	17・3・19	伊佐井寿郎氏 昭33	17・4・27
釧路市春採7の35の5	邦子氏	函館市湯川町2の41の16	信子氏
水江 三雄氏 昭2	16・2・20	三田村信雄氏 昭24	17・4・29
江別市大森東町5の2		上磯町久根別2の5の30	陽子氏
松浦(北野)哲氏 昭31	17・1・17	大橋 治男氏 昭11	17・4・30
登別市若山町4の36の10	北野倫子氏	八雲町東町65の2	妙子氏
奥野 八郎氏 昭16	17・4・9	峯山 久保氏 昭8	17・5・4
札幌市東区北31条東6の2の16	聿子氏	釧路市武佐1の25の30	ひさえ氏
三上 喜一氏 昭11	17・2・26	渡部 俊氏 昭3	17・4・8
北見市緑ヶ丘6の3の25	恵氏	札幌市手稲区富丘2条7の5の37	勲氏
宮下 正司氏 昭11	17・4・6	木立 勇氏 昭4	17・5・1
檜山郡江差町本町151	節氏	函館市吉川町3の32	きよの氏
和崎 洲二氏 昭19	17・3・30	青山 博雄氏 昭8	16・12・14
江差町新地町56	久江氏	越谷市東越谷8の179の1	ますゑ氏
伊藤 幸雄氏 昭19	16・12・16	保川 正雄氏 昭22	17・3・24
札幌市東区北27条6の2の7	テツ氏	紋別市落石町2の8の9	笑子氏
竹内 幸雄氏 昭24	17・4・2	千葉 茂雄氏 昭16	17・5・22
函館市柳町1の2	美恵子氏	伊達市舟岡町135の10	寿美子氏
島田 良則氏 昭25	17・4・17	橘 喜久広氏 昭9	17・5・23
函館市五稜郭町14の25	陽子氏	函館市湯川町3の20の2	和子氏



編集後記

◆会報一八六号「総会特集号」をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真を寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。◆今号の表紙は、西高に登る坂から見たカトリック元町教会です。「このアングルの写真は珍しいですよ」と、撮影してくれた土谷副幹事が話してくれました。◆今年度の推進事項にありますように、母校の情報を本会報でも継続的に行っていくため、『母校は今』のコーナーを設けました。毎号、母校の様子を母校の先生方から発信していただけるようお願いしております。

◆新聞・テレビ等でご承知のことと思いますが、今年の六月にオープンした、湯の川観光ホテル内のラーメンテーマパーク「函館湯の川温泉らーめんブリッジ」が好評です。今夏、来函の折りにでも覗いてみてはいかがでしょうか。

◆情宣部は、私も含め新しいスタッフで担当いたします。伊勢 昭(昭49卒旭岡小長)、碇 幸信(昭49卒南本通小長)、戸澤和彦(昭54卒上湯川小頭)、古川邦彦(昭56卒千代田小頭)、鈴木大平洋(昭47卒北昭和小頭)、佐藤 豊(平元卒北昭和小)、どうぞよろしく願っています。

(情宣部長 秋元 順一 記 昭49年卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学教育学部附属函館小学校内 北海道教育大学夕陽会本部

電話番号 (0138) 46-2235

夕陽会専用 (0138) 34-5520

FAX番号 (0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)